

ナツメ

学名： *Ziziphus jujuba* Miller ver. *inermis* Rehder 科名：クロウメモドキ科



初夏から夏にかけて花を咲かせ、小さなリンゴのような赤い卵型の果実を実らせるナツメ。実際に果実を齧ってみるとリンゴのような味がします。「ナツメ」と言う名前は、夏に芽を出すためナツメと名付けられたと言われています。たまにデーツと呼ばれるナツメヤシの実とナツメが、名前や見た目が似ていることから混同される場合がありますが、ナツメヤシとナツメは全く異なる植物です。

10～11月頃にナツメの実を収穫して蒸し、日干しを行ったものが大棗と言う生薬になります。ナツメの果実は生薬として用いる他、食用としても用いられますが、生薬である大棗とは処理の過程が異なります。食用の場合はナツメの果実を夜露に当て、翌日に日干しを行います。食用のナツメの果実は赤みを帯びている為、紅棗（こうそう）と呼ばれることもあります。

大棗には中性多糖や酸性多糖などの糖類、有機酸類、サイクリックAMPなどが含まれています。作用として精神安定作用、鎮静作用があり、小児の夜泣きや婦人のヒステリー、精神不安などに用いられます。

生薬名 大棗(タイソウ) 局方生薬

薬用部位 果実

薬効 精神安定、鎮静作用

用途 風邪薬、鎮静薬として漢方処方に配合される。
甘麦大棗湯（かんばくたいそうとう）、
葛根湯（かっこんとう）など



アカバナムシヨケギク

学名： *Chrysanthemum coccineum* Willd 科名：キク科



アカバナムシヨケギクはキク科の多年草で高さは50〜60センチほどになり、5月から7月頃に赤色やピンク色の花を咲かせます。

花の子房には殺虫成分であるピレスリンやシネリンが含まれます。ピレスリンやシネリンは昆虫類、両棲類、爬虫類に対して強い麻痺、接触性の毒性を示します。昆虫に対する殺虫効果は大きく、哺乳類に対する毒性は低いため安全性が高いとされています。その他にも生体内での分解、排泄が極めて速いことなど、他の殺虫成分にはない優れた特徴があることから多くの合成ピレスロイド系殺虫剤が開発されています。

同じ殺虫成分を含むものにシロバナムシヨケギクがあります。アカバナムシヨケギクは殺虫成分の含有量が少なく、収花量も少ないため、通常は蚊取り線香や農芸殺虫剤製造原料として使用されるのはシロバナムシヨケギクです。アカバナムシヨケギクを使用する場合はピレスリンの含有量が少ないため、混入率を多くします。アカバナムシヨケギクは漢方で使用されることもないため、主に観賞用として栽培されています。

生薬名 赤花除虫菊（アカバナジョチュウギク）

薬用部位 頭花

薬効 殺虫作用

用途 蚊取り線香、農芸殺虫剤製造原料、観賞用